

令和5年度 県内国公立大学薬学部設置推進事業

報告書
(概要版)

令和6(2024)年3月

沖縄県

《 目 次 》

I 事業の目的・内容	1
1 事業の目的	1
2 事業の内容	2
II 薬学部・薬剤師に関する最新の知見等の情報収集等	3
1 薬学部の経営状況に関する情報収集	3
2 公立大学の学部新設・公立大学新設に関する情報収集	3
3 薬剤師養成に係る国内の動向の確認（薬剤師国家試験の合格率等）	5
4 薬学部設置の推進のために有益となる情報	7
III 県が支援する県内国公立大学の選定	9
1 県内国公立大学薬学部設置推進事業構想審査会の設置	9
2 構想審査会の委員構成等	9
3 構想審査会の開催状況	9
IV 県内国公立大学薬学部設置推進協議会の開催	10
V 県内国公立大学薬学部設置シンポジウムの企画・開催	11
1 シンポジウムの実施概要	11
2 シンポジウムの開催記録	13
3 関連イベントの開催結果概要	14
4 シンポジウム来場者アンケート	15
VI まとめと今後求められる対応	17
1 事業実施結果のまとめ	17
2 今後求められる対応	17

I 事業の目的・内容

1 事業の目的

沖縄県において、地域医療の推進や創薬に関する基礎研究の支援等の観点から、薬剤師の確保に努めることは重要と考えられる。

しかしながら、厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師統計」によると、令和4年12月現在、人口10万人あたりの薬局・医療施設に従事する薬剤師数は、全国平均の202.6人に対し、沖縄県は149.4人で全国最下位の状況が続いている。

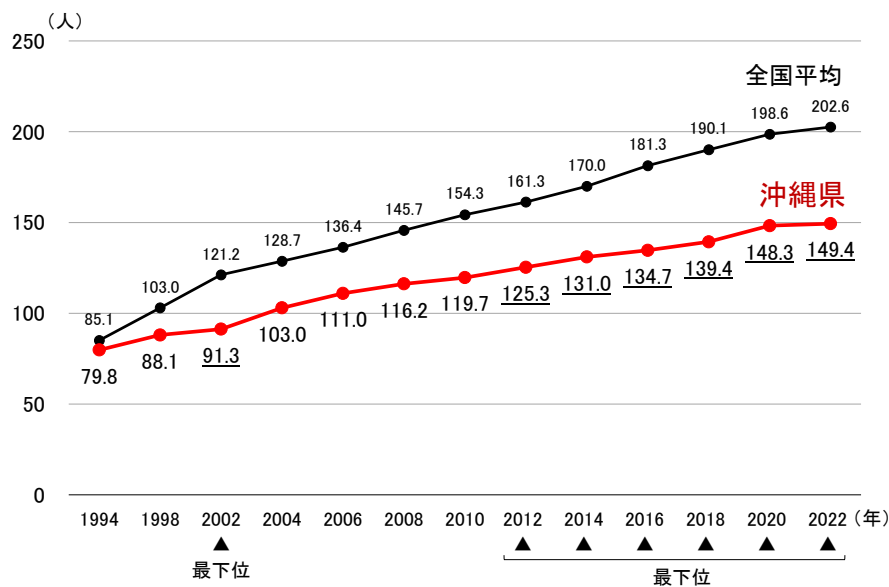
薬剤師が不足している要因として、県内に薬剤師養成機関が無く、薬剤師になるためには、県外へ進学する必要があることや多額の費用がかかること等が挙げられる。

このため、県では、令和2年度から令和3年度にかけて「薬学部設置可能性等調査事業」を実施し、県内薬剤師の需給予測や県内国公立大学への薬学部設置の必要性、可能性等について調査を実施した。薬剤師の需給予測の結果、県内では、薬剤師の需要量が供給量を上回る状況が続き、需給の差は年々拡大していくことが見込まれた。また、アンケート調査及びヒアリング等の結果から、県内国公立大学への薬学部設置の必要性等が確認された。

こうしたことを踏まえ、県では、県内国公立大学への薬学部設置を早期に実現するため、令和4年度に「県内国公立大学薬学部設置推進事業」を立ち上げ、「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定した。

本事業は、この基本方針に基づき、薬学部の設置に向けて県が支援する県内国公立大学の選定などの取り組みを進めることを目的に実施したものである。

図表 I-1 人口10万人あたりの薬剤師数の推移(薬局・病院等)



(資料)厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

2 事業の内容

上記目的を達成するため、本事業では、以下に示す事項について、情報収集、検討・協議を行うとともに、県内国公立大学への薬学部設置に向けた県民等の機運を醸成するため、シンポジウムを開催し、これらの実施結果を報告書にとりまとめた。

- (1) 薬学部・薬剤師に関する最新の知見等の情報収集等
- (2) 県が支援する県内国公立大学の選定
- (3) 県内国公立大学薬学部設置推進協議会の開催
- (4) シンポジウム等の開催

II 薬学部・薬剤師に関する最新の知見等の情報収集等

1 薬学部の経営状況に関する情報収集

沖縄県内の国公立大学に設置を想定する薬学部の経営について参考となる情報を得るため、和歌山県立医科大学薬学部、山陽小野田市立山口東京理科大学を訪問し、学部経営の状況等に関する情報収集を行った。

(1) 和歌山県立医科大学薬学部

訪問日：2023年6月21日（水）16：00～17：00

訪問者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング、沖縄県保健医療部衛生薬務課（オンライン）

質問事項

- 1) 薬学部の収支計画と地元自治体による運営経費の支援
- 2) 薬学部経営における課題

(2) 山陽小野田市立山口東京理科大学

訪問日：2023年7月4日（火）14：30～17：00

訪問者：沖縄県保健医療部衛生薬務課、三菱UFJリサーチ&コンサルティング

質問事項

- 1) 薬学部の経営状況と地元自治体による運営経費の支援
- 2) 他学部・他大学の教員の兼任の状況

2 公立大学の学部新設・公立大学新設に関する情報収集

公立大学の学部新設に関する手続等について参考となる情報を得るため、和歌山県立医科大学薬学部を訪問し、新学部設置の検討から設置に向けた具体的な対応について、情報収集を行った。

また、公立大学の新設について参考となる情報を得るため、広島県公立大学法人叡啓大学を訪問し、公立大学の設置の経緯、設置の検討から設置に向けた具体的な対応について、情報収集を行った。

(1) 和歌山県立医科大学薬学部

訪問日：2023年12月19日（火）15：00～16：00

訪問者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング、沖縄県保健医療部衛生薬務課（オンライン）

質問事項

- 1) 新学部（薬学部）設置に当たっての公立大学法人との調整事項
- 2) 新学部（薬学部）設置の基本計画の策定、設計・工事等への対応
- 3) 新学部（薬学部）設置の国への申請への対応
- 4) 新学部（薬学部）設置に当たっての大学組織の拡充等の状況

(2) 広島県公立大学法人観啓大学

訪問日：2024年1月11日（木）14：00～15：00

訪問者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング、沖縄県保健医療部衛生薬務課（オンライン）

質問事項

- 1) 大学新設の経緯
- 2) 大学新設に向けた実施体制と開学後の大学運営体制
- 3) 大学新設に向けた基本計画の策定、設計・工事等への対応
- 4) 新設大学の教員確保への対応
- 5) 新設大学の理念や各種規約等の整備への対応
- 6) 大学新設の国への申請への対応

3 薬剤師養成に係る国内の動向の確認（薬剤師国家試験の合格率等）

(1) 薬剤師国家試験・薬学部定員充足率等の状況

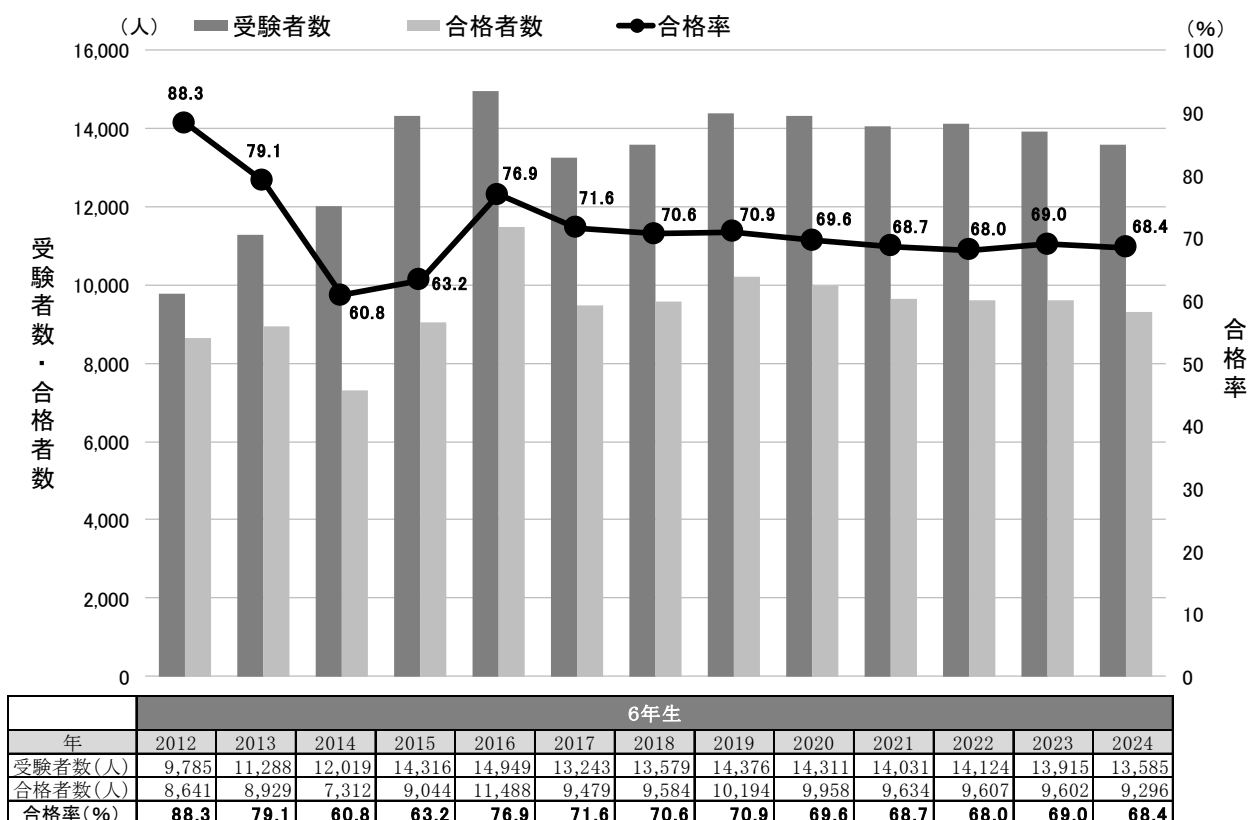
ア 薬剤師国家試験の受験者数・合格者数・合格率

近年の薬剤師国家試験の受験者数・合格者数・合格率の推移をみると、受験者数は2016年をピークに一旦減少し、2019年に向けてやや増加したものの、以降は横ばいないし微減しており、合格者数も同様に推移している。

合格率は、2014年には60.8%と最も低くなったものの、2016年には76.9%にまで回復した。しかし、2017年に再び低下して以降はわずかに減少傾向にあり、2020年以降は70%を下回っている。

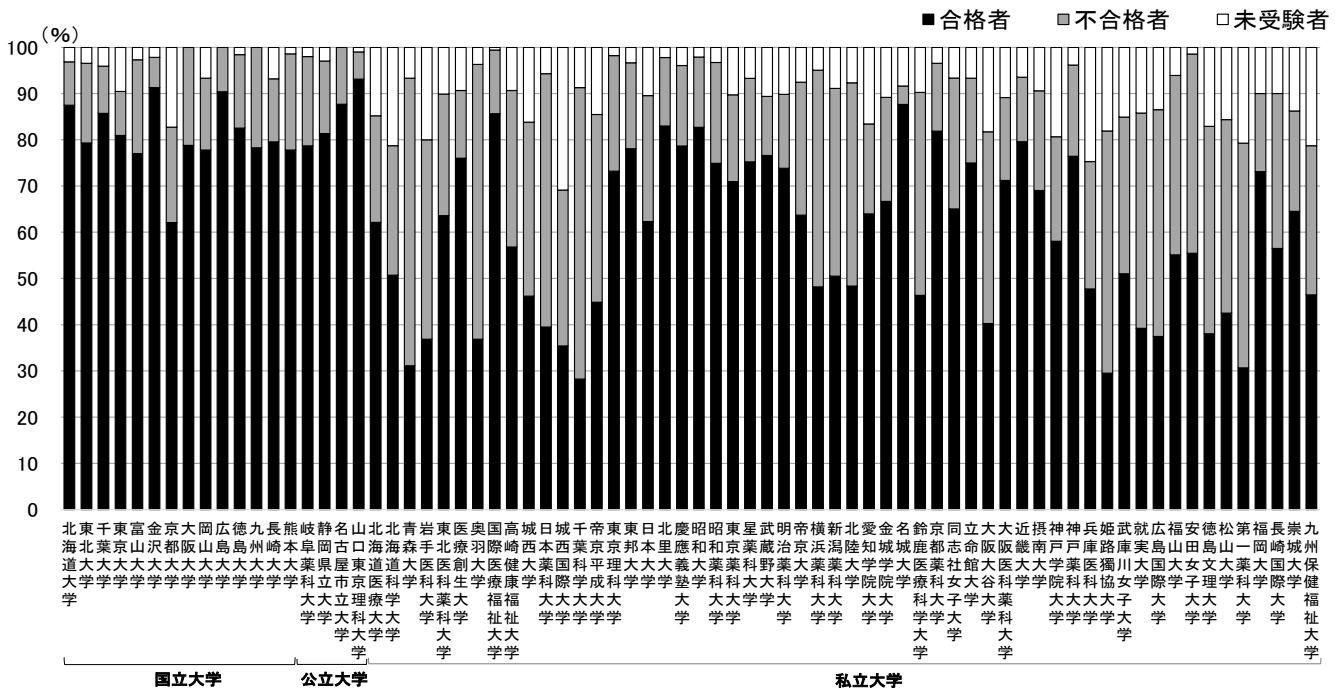
直近の大学別の合格率をみると、国公立大学では概ね70～90%の水準になっている大学が多いが、私立大学では70%を下回る大学も多く、50%に満たない大学も複数みられる。

図表 II-1 薬剤師国家試験の受験者数・合格者数・合格率の推移



(資料)厚生労働省「第109回薬剤師国家試験の合格発表 試験回次別合格者数の推移」

図表 II-2 第 109 回薬剤師国家試験の大学別合格者・不合格者・未受験者の比率

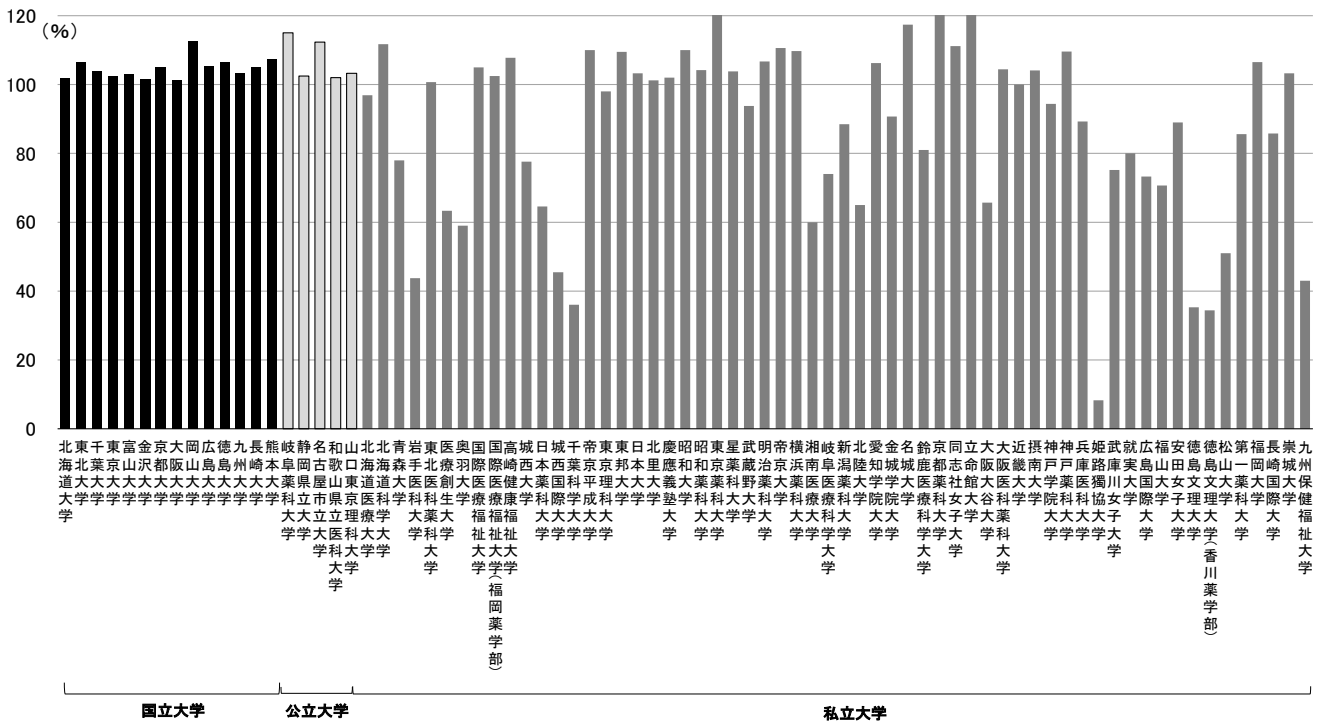


(資料)厚生労働省「第 109 回薬剤師国家試験 大学別合格者数」

イ 大学別定員充足率の状況

大学別の入学定員充足率をみると、国公立大学ではほとんどの大学で 100%前後になっているが、私立大学では 100%に満たない大学が多く、中には入学定員充足率が著しく低い大学もみられる。

図表 II-3 大学別入学定員充足率(6年制)の状況(令和5年度)



(注)北海道大学、東北大学、千葉大学、東京大学、京都大学は6年制と4年生を一括募集(入試)している。

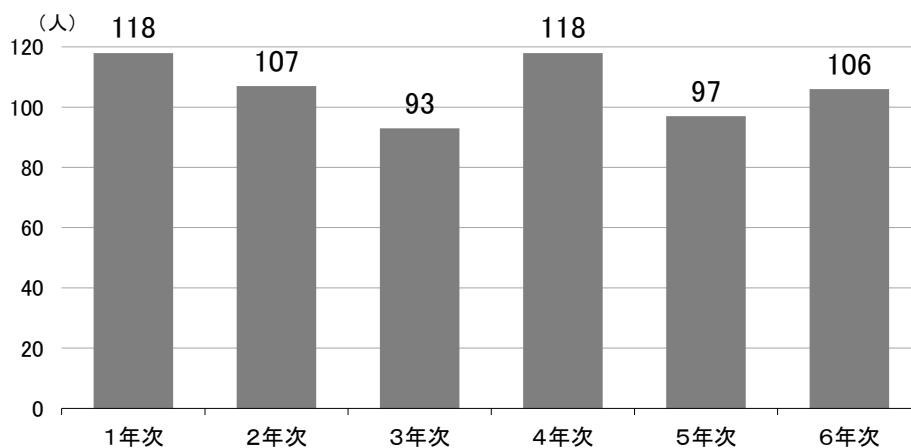
(資料)文部科学省「薬学部における修学状況等 2023 年(令和5)年度調査結果」

4 薬学部設置の推進のために有益となる情報

(1) 沖縄県からの薬学部進学者数

沖縄県からの薬学部進学者数の現状は、以下の図表に示すとおりであり、県内から毎年度 100 人前後の学生が県外の薬学部に進学している。沖縄県からの薬学部進学者の地域別の内訳をみると、「九州・山口」が 244 人と最も多く、次いで、「関東」が 163 人、「中国・四国」が 92 人となっている。

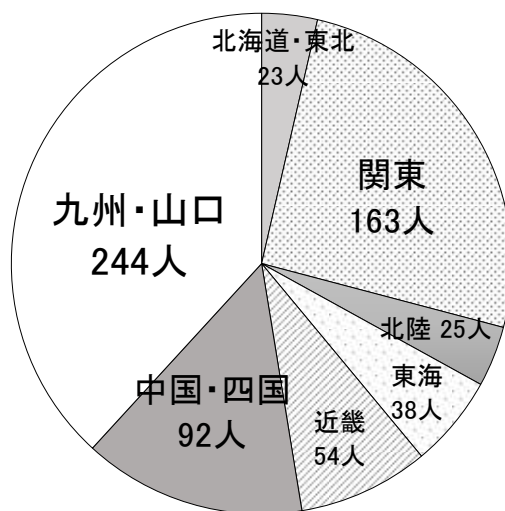
図表 II-4 沖縄県出身者の薬学部在籍者数(学年別)(2023 年)



(注) 6年制学生の在籍者数を集計したもの。

(資料) 一般社団法人 薬学教育協議会「在籍者数調査結果」(2023 年5月1日時点)(下図表も同様)

図表 II-5 沖縄県出身者の薬学部在籍者数(地域別)(2023 年)



(2) 18歳人口の将来見通し

大学入学年齢に相当する18歳人口の将来見通しは、以下のとおりである。全国については、2020年から2028年にかけて、18歳人口は約1割減少することが見込まれており、沖縄県内の国公立大学に設置を想定する薬学部への県外からの入学者数を検討する際には、こうした入学対象年齢の人口減少についても考慮することが不可欠である。

一方、沖縄県については、2020年から2030年頃までは、18歳人口はほぼ横ばいで推移する見通しとなっている。

図表 II-6 18歳人口の将来推計値(全国・沖縄県)

(単位:千人)

年	18歳人口					
	全国			沖縄県		
	人口研推計	(2020年=100)	国勢調査	人口研推計	(2020年=100)	国勢調査
2020	1,172	100.0	1,151	15.7	100.0	15.2
2021	1,127	96.2				
2022	1,128	96.2				
2023	1,091	93.1				
2024	1,091	93.1				
2025	1,100	93.9		15.6	99.4	
2026	1,107	94.5				
2027	1,088	92.8				
2028	1,084	92.5				
2029	1,076	91.8				
2030	1,052	89.7		15.6	99.5	
2031	1,049	89.5				
2032	1,025	87.5				
2033	1,028	87.7				
2034	1,004	85.6				
2035	964	82.2		14.4	91.6	

(注) 人口研推計(沖縄県)の18歳人口は、15～19歳人口に1/5を乗じたもの。

(資料) 人口研推計(全国):「日本の将来推計人口」(令和5(2023)年推計)

人口研推計(沖縄県):「日本の地域別将来推計人口」(令和5(2023)年推計)

III 県が支援する県内国公立大学の選定

1 県内国公立大学薬学部設置推進事業構想審査会の設置

「沖縄県内国公立大学薬学部設置に係る基本方針」に基づき、薬学部設置に向けて県が支援する県内国公立大学を選定するため、「県内国公立大学薬学部設置推進事業構想審査会」を設置した。

2 構想審査会の委員構成等

構想審査会の委員は以下に示すとおりであり、有識者、大学関係者、行政機関等より、計6名の方々にご参加いただいた。

【委員】（敬称略・五十音順）

安里 哲好（一般社団法人沖縄県医師会 会長）

糸数 公（沖縄県保健医療部 部長）

太田 茂（公立大学法人和歌山県立医科大学 薬学部長）

佐々木 有朋（公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学 事務局長 理事）

中村 克徳（沖縄県病院薬剤師会 会長）

前濱 朋子（一般社団法人沖縄県薬剤師会 会長）【委員長】

3 構想審査会の開催状況

(1) 第1回審査会

日時：2023年8月24日（木）18：00～19：45

場所：沖縄県薬剤師会 会議室

出席者：委員全員

議事

- 1) 県内国公立大学薬学部設置推進事業と薬学部設置に関する基本方針の概要
- 2) 意見交換
 - ・沖縄県内国公立大学薬学部設置構想募集要項（案）
 - ・沖縄県内国公立大学薬学部設置構想募集における審査項目・配点（案）
 - ・県内国公立大学への説明の状況等
- 3) 今後の予定

(2) 第2回審査会

日時：2023年12月18日（月）13：00～14：00

場所：沖縄県薬剤師会 会議室

出席者：委員全員

（安里委員の代理として宮里達也副会長（一般社団法人沖縄県医師会）ご出席）

議事

- 1) 第1回審査会の概要について

- 2) 薬学部設置構想募集への応募状況について
- 3) 県内国公立大学への薬学部設置に向けた今後の対応について
(琉球大学からの「応募提案書を提出できる状況にないが、薬学部設置の可能性を含め沖縄県と緊密に連携しつつ協議を進めたい」との回答を踏まえ、協議の場の設置について琉球大学と調整する方針を確認。)

IV 県内国公立大学薬学部設置推進協議会の開催

沖縄県内の国公立大学を対象に、薬学部の設置を希望する大学の募集（薬学部設置構想の提案募集）を行ったが、何れの大学からも提案はなかった。

このため、県との協議により、薬学部設置推進協議会は開催しないこととなった。

V 県内国公立大学薬学部設置シンポジウムの企画・開催

1 シンポジウムの実施概要

(1) 開催の狙い

県内国公立大学への薬学部設置の必要性、薬剤師の確保による様々な効果等について、幅広い県民に理解を深めていただき、薬学部設置に向けた県民等の機運を醸成につなげることを目的とする。

(2) シンポジウムタイトル

タイトル：薬学部設置の必要性を考える ～薬剤師確保による多方面への効用～

サブタイトル：令和5年度 県内国公立大学薬学部設置シンポジウム

(3) 開催日程

2024年3月24日（日）

関連イベント 12:30～14:00・シンポジウム 14:00～16:45

(4) 会場

沖縄県市町村自治会館 自治会館ホール・ホワイエ（2階）

(5) 開催主体等

主催：沖縄県、共催：沖縄県薬剤師会

後援：沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会、沖縄県商工会議所連合会、
沖縄経済同友会、沖縄県経営者協会、沖縄県商工会連合会、沖縄県中小企業団体中央会

(6) 開催内容

ア 関連イベント

●子ども調剤体験(対象:幼児から小・中学生、高校生まで)

・将来、薬剤師を志す子どもたちを対象に調剤体験ブースを設置。

●薬剤師の業務紹介(パネル展示)

・病院、薬局の他にも多種多様な業務を行っている薬剤師の業務をご紹介します。

●大学薬学部による進学相談会

・県外大学の薬学部（昭和薬科大学、名城大学、徳島文理大学、九州保健福祉大学）がブースを設置し、薬学部への進学を検討中の高校生等を対象に、進学相談会を開催。

イ シンポジウム

開会

開会挨拶（沖縄県 玉城デニー 知事）

来賓挨拶（レキオフアーマ株式会社 代表取締役社長 奥キヌ子氏）

●主催者報告 沖縄県における薬剤師不足の現状と薬学部設置への取組

(沖縄県保健医療部衛生薬務課 川崎浩明 主幹)

●特別講演 知ってますか、薬剤師の重要性

～ 新薬開発、違法・危険薬物の摘発・取り締まり、検疫、人・動物感染症の予防・対策、調薬、市販薬の指導・販売、その他 ～

(水谷青少年問題研究所 所長 (夜回り先生) 水谷修 氏)

●基調講演 薬剤師確保に係る各種施策等について

(厚生労働省医薬局総務課 国際医薬審査情報分析官 井上隆弘 氏)

●パネルディスカッション

テーマ：薬学部設置の必要性を考える ～薬剤師確保による多方面への効用～

【登壇者】(五十音順)

厚生労働省医薬局総務課 国際医薬審査情報分析官 井上隆弘 氏

沖縄県 保健医療部長 糸数 公

沖縄県商工会連合会 会長 米須義明 氏

沖縄県薬剤師会 会長 前濱朋子 氏

ドクターゴン診療所 院長 泰川恵吾 氏

昭和薬科大学 理事長 渡部一宏 氏

閉会

2 シンポジウムの開催記録

(1) 開催結果概要

薬学部に関心をもつ学生とその保護者及び学校、経済団体、医療関連団体の関係者の方々（計 207 名）にご参加いただきました。

(2) 報告・講演・シンポジウムでの概要

ア 開会あいさつ

シンポジウムの開会にあたり、沖縄県知事の代理として池田副知事より、ご挨拶いただきました。

イ 来賓あいさつ

来賓として、レキオファーマ株式会社 代表取締役社長 奥キヌ子氏より、ご挨拶いただきました。

ウ（主催者報告）沖縄県における薬剤師不足の現状と薬学部設置への取組方針

沖縄県保健医療部衛生薬務課の川崎主幹より、沖縄県における薬剤師不足の現状と薬学部設置への取組方針について、説明を行った。

エ（特別講演）薬剤師確保に係る各種施策等について

水谷青少年問題研究所の所長（夜回り先生）である水谷修氏より、「知ってますか、薬剤師の重要性」をテーマにご講演いただき、新薬開発、違法・危険薬物の摘発・取り締まり、検疫、人・動物感染症の予防・対策、調薬、市販薬の指導・販売、その他について、薬剤師との関わりを含めてご説明いただきました。

オ（基調講演）薬剤師確保に係る各種施策等について

厚生労働省医薬局総務課の国際医薬審査情報分析官である井上隆弘氏より、「薬剤師確保に係る各種施策等について」をテーマにご講演いただき、「地域における薬剤師・薬局のあり方」「デジタル技術の活用」「医薬品の販売制度の見直し」「薬剤師の確保」についてご説明いただきました。

カ パネルディスカッション：薬学部設置の必要性を考える～薬剤師確保による多方面への効用～

前ページに記載の 6 名のパネリストの方々にご参加いただき、「薬学部設置の必要性を考える～薬剤師確保による多方面への効用～」をテーマに、意見交換が行われた。

キ 閉会あいさつ

シンポジウムの閉会にあたり、沖縄県薬剤師会の前濱会長より、ご挨拶いただきました。

3 関連イベントの開催結果概要

(1) 子ども調剤体験

将来、薬剤師を志す子どもたち（幼児から小・中学生、高校生まで）に、調剤体験にご参加いただいた。（計 92 名が参加）

(2) 薬剤師の業務紹介（パネル展示）

病院、薬局の他にも多種多様な業務を行っている薬剤師の業務内容を掲載したパネルを展示し、薬剤師による説明が実施された。

(3) 大学薬学部による進学相談会

昭和薬科大学、名城大学、徳島文理大学、九州保健福祉大学（4月より、九州医療科学大学）の4大学により、ホワイエに設置されたブースにて、薬学部への進学を検討中の高校生やその保護者などに対して、進学相談会が実施された。

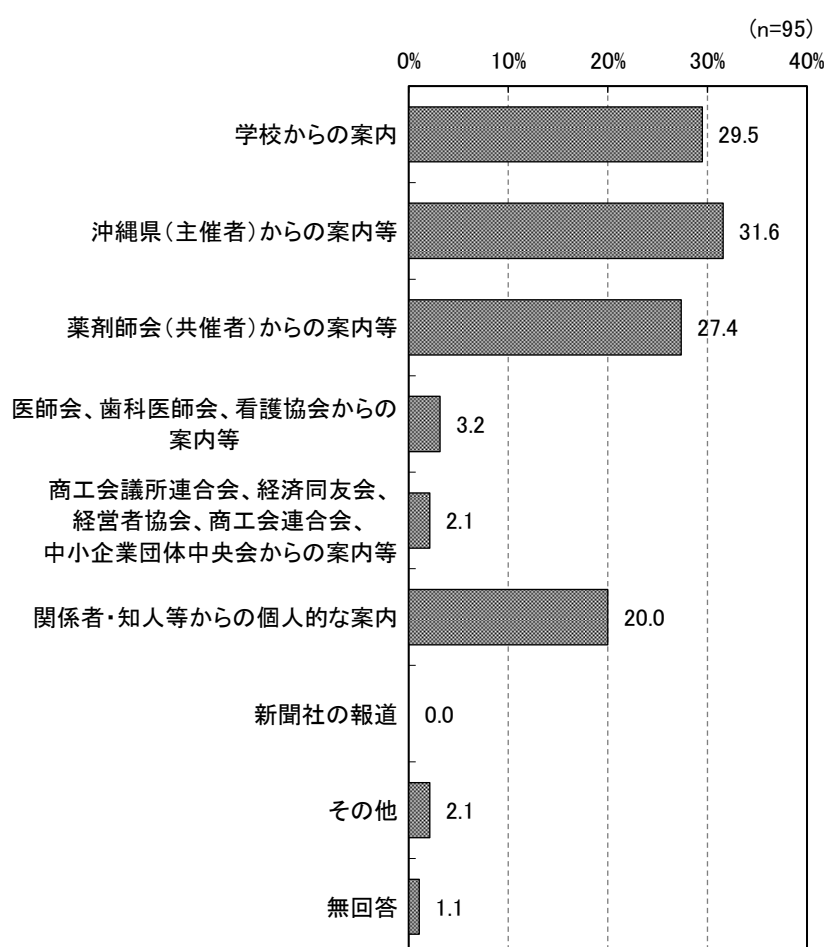
4 シンポジウム来場者アンケート

今後の同種のシンポジウム等を開催する際の参考とするため、シンポジウムの情報入手経路、感想、属性を尋ねる来場者アンケートを実施し、来場者のうち 95 人より回答を得た。

(1) シンポジウム情報の入手経路

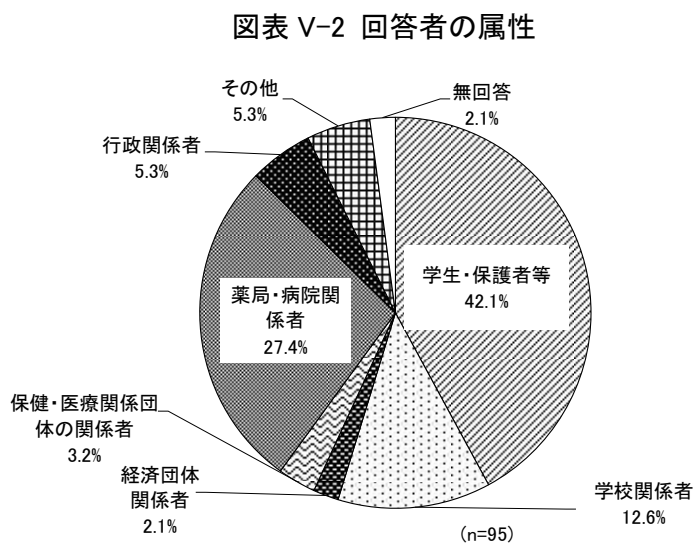
シンポジウム情報の入手経路は、「沖縄県（主催者）からの案内等」（31.6%）の割合が最も高く、次に「学校からの案内」（29.5%）、「薬剤師会（共催者）からの案内等」（27.4%）、「関係者・知人等からの個人的な案内」（20.0%）が続く。

図表 V-1 シンポジウム情報の入手経路(複数回答)



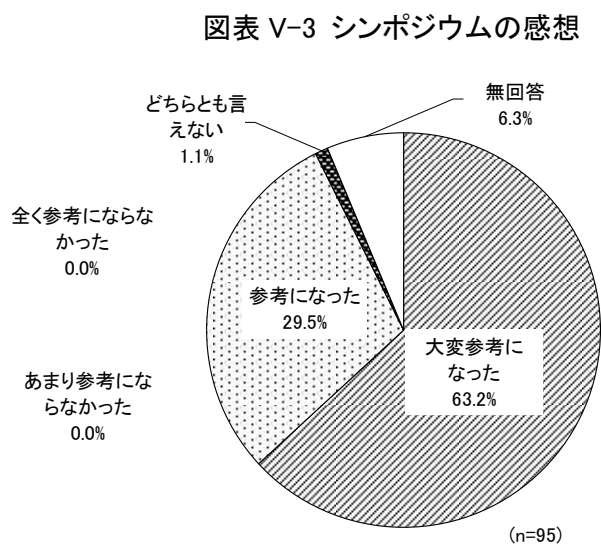
(2) 回答者の属性

アンケート回答者の属性は、「学生・保護者等」(42.1%)の割合が最も高く、次に「薬局・病院関係者」(27.4%)、「学校関係者」(12.6%)が続く。



(3) シンポジウムの感想

シンポジウムの感想については、「大変参考になった」が 63.2%、「参考になった」が 29.5%で、参考になったとする割合が約9割を占める。



VI まとめと今後求められる対応

1 事業実施結果のまとめ

(1) 薬学部・薬剤師に関する最新の知見等の情報収集等

公立大学の薬学部の経営状況、公立大学の新設に当たって必要となる対応などについて、和歌山県立医科大学薬学部、山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部、広島県公立大学法人叡啓大学より情報収集を行った。

(2) 県が支援する県内国公立大学の選定

県内国公立大学薬学部設置推進事業構想審査会（委員6名）を設置し、県内国公立大学を対象とする薬学部設置構想募集要綱等の検討（第1回）、各大学からの応募状況の確認と今後の対応の協議（第2回）を行った。

(3) 県内国公立大学薬学部設置推進協議会の開催

県が支援する県内国公立大学が選定されなかったため、県との協議により、薬学部設置推進協議会は開催しないこととなった。

(4) シンポジウム等の開催

県内国公立大学への薬学部設置に向けた県民等の機運醸成を目的に、シンポジウムを企画・開催し、薬学部に関心をもつ学生とその保護者及び学校、経済団体、医療関連団体の関係者の方々（計207名）にご参加いただいた。

2 今後求められる対応

上記を踏まえて、県内国公立大学への薬学部の設置に向けて、今後求められる対応としては、以下のものが挙げられる。

(1) 薬学部・薬剤師に関する最新の知見等の情報収集等

薬学部・薬剤師に関する最新の知見等の情報収集等を行い、県内国公立大学への薬学部の設置を検討するに当たって参考となる情報の整理（更新）を行う必要がある。

(2) 県と琉球大学との協議

薬学部の設置について、県と琉球大学との協議を進める必要がある。

(3) 県内国公立大学薬学部設置推進協議会の開催

県内国公立大学への薬学部設置を推進するため、行政機関、有識者等で構成される協議会を開催する必要がある。

(4) 薬学部の設置による多方面への効用等の整理

地域経済への効果を含め、県内に薬学部を設置することによる多方面への効用等について整理する必要がある。

(5) 薬学部設置に向けた情報発信

県内国公立大学への薬学部設置に向けた県民の機運醸成を図る必要がある。

令和5年度 県内国公立大学薬学部設置推進事業 報告書(概要版)

令和6(2024)年3月

【実施主体】沖縄県保健医療部衛生薬務課

【事業委託先】三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社